

仕事の内容も生活も模索の毎日ですが、周りの仲間の様子を見て「あれをやつてみたい」、最近の流行などをＴＶから持つて来て「これを作つてみたい」など、情報を得ながら職員も仲間と共により本人にあつた表現活動を検討しながら仕事を向かっています。

これまで取り組んできたお菓子作りや表現活動は少しずつではあります、実を結んできています。若く元気な仲間が過ごすのには、施設自体がそれに適した構造をしていない問題の一つとなっています。また、若い仲間が多いといつても、いつまで

大宮太陽の家では、仲間の人数が「はれ」への入所等で少なくなつたこともあり、この4月から大きく班体制を変更しました。班によつては過密になつていた状況を少しづつ改善していく様子を取り組んでいます。また仲間を支える職員集団についても、これまでの取り組みを見直しながら、より仲間本人に合つたかわいら方が出来る様子に、職員全員で考え方ながら取り組んでいく最中です。こうした取り組みが仲間たちの生活のしやすさに繋がる様子、継続していきたいと思います。

欲しいという仲間たちの気持ちがよく見えます。職員に対してのアピールとして、大きな声を出してみたりするBさん。ゆっくり話を聞いてくれる仲間に対し、どこまでも話の止まらないCさん。など、他の仲間のことを強く意識しながらも、”自分“がという面がまだまだ強く、「他の仲間もいるから」「皆がこうしているから自分はこうしよう」ということは難しいです。だからこそ表現活動に力を注ぎながら、自分自身が評価され自信をもつて取り組める仕事が必要だと感じます。仲間一人ひとりに注目していくことを、大切に取り組んでいきたいと思っています。



新しいシリーズが始まりました!!
私が大切にしていること

働き始めてから2年間、私が大切にしてきたことは仲間の気持ちを想像すること、考えることです。大地に入職した当初、福祉の専門的な勉強をしたことがあつた私には、知識も経験もなく、すべてが初めてのことばかりでした。そんな日々の中でも一番悩んだことは

(昭和54年3月10日第3種郵便物認可)

大宮太陽の概要

大宮太陽の家は2004年に開所し、当初6人で始まりました。それから15年経ち仲間も増え、今年度「はれ」が開所するにあたり、数名の仲間がそちらに異動となり、現在は20名の仲間が通所しています。

最年長の仲間は47歳、最年少が20歳、全体的に若い方が多く在籍しています。それにともなって、活動の内容や日課の過ごし方もパワフルな傾向が見られます。

仲間に合わせた仕事探し

大宮太陽の家の仕事は、パウンドケーキ作りから始まりました。仲間が増えるごとに仕事の内容が仲間たちに合っているかが議論になり、お菓子作りをすることが仲間たちの豊

大宮太陽の概要

仲間一人ひとりに注目して

大宮太陽の家

2班が連携しながら

現在はお菓子作りのくろーばー班と表現活動のふらわー・はなみずき班に分かれて活動をしていますが、完全に分かれているというわけではなく、作業分担をしています。お菓子作り 자체はくろーばー班で行い、納品用のタグ作りや実際の納品はふらわー班で行うなど、連携を取りながらの仕事です。また、決まつた仕事を行うくろーばー班に対し、ふらわー・はなみずき班の方が全体的に動ける自由度が高いこともあり、銀行へ行つたり、買い物へ行つたりなど日常の業務も率先しておこなっています。

表現活動を通しての成果

大宮太陽の概要

大宮太陽の家は2004年に開所し、当初6人で始まりました。それから15年経ち仲間も増え、今年度「はれ」が開所するにあたり、数名の仲間がそちらに異動となり、現在は20名の仲間が通所しています。

最年長の仲間は47歳、最年少が20歳、全体的に若い方が多く在籍しています。それにともなって、活動の内容や日課の過ごし方もパワフルな傾向が見られます。

仲間に合わせた仕事探し

大宮太陽の家の仕事は、パウンドケーキ作りから始まりました。仲間が増えるごとに仕事の内容が仲間たちに合っているかが議論になり、お菓子作りをすることが仲間たちの豊

当時の職員集団で、川口太陽の家など他施設の見学も繰り返し、仲間を仕事に合わせるのではなく、仕事を仲間に合わせて探していく、作つていくことを大切に考え、表現活動班を加えることにしました。最初は仲間6名に職員1名の小さな班だったのが、現在では仲間12名の大好きな班となりました。

とが仲間たちの自信あふれる姿へ繋がっています。

エネルギーを外へ表現する為、大きく体を動かしてみたり、叫んでみたり、時には泣いてみたり…。それでも長く続けていくことで、周りの仲間がお互いに「今はこういう気持ちなのかな」と理解し、お互いに少しずつ受けとめられるようになつてきました。それを繰り返しながら、表現の仕方が体を使つたものだけでなく、紙の上だつたり織りだつたり、自由に表現できるようになつてきました。

大宮太陽の家は一時、職員の入れかわりが多く、仲間への継続した支援がうまくいかないこともあります。そんな中でも仲間たちはお互いをよく知つていて、職員も仲間たちに仲間たちのことを教えてもらひながら取り組みを続けています。

びっぱなしで本人のように自由で眠やかな表現をします。以前は揃つていた方が見栄えが良いだろうと、端をハサミで切つていたこともあります。だが、そのままが本人らしい表現だということを皆で確認をして、今ではそのままのダイナミックな表現が出ています。

平成29年度には工房集の協力を得て、第一回大宮太陽の家作品展「走れっ！ワクワクする表現」を行いました。“ケーキ屋さん”“お菓子作りの大宮太陽の家”という印象が強い中、それだけではない、元気で熱いのある仲間たちの表現活動を、社会に発信する大きな取り組みをすることができました。

日々の取り組みの中で自分を認めてほしい、自分の頑張りを見ていて

